

令和5年度行政事業レビューシート ( 文部科学省 )

事業名	GIGAスクールにおける学びの充実			担当部局庁	初等中等教育局	作成責任者	
事業開始年度	平成27年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	学校デジタル化プロジェクトチーム	学校デジタル化プロジェクトチーム リーダー 武藤 久慶	
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)				関係する 計画、通知等	第3期教育振興基本計画(平成30年6月15日閣議決定) 未来投資戦略2018(平成30年6月15日閣議決定)		
政策	2 確かな学力の向上、豊かな心と健やかな体の育成と信頼される学校づくり			主要経費	科学技術振興費、教育振興助成費		
施策	2-1 確かな学力の育成						
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20221215-mxt_kanseisk01-000026547-07-2.pdf						
事業の目的 (5行程度以内)	本事業は、実践例の創出・普及、要支援地域への指導支援、教師の指導力向上支援の更なる強化を通じ、1人1台端末環境において、その効果的な活用を通じた児童生徒の学びの充実を促進することで、優良事例の普及、自治体支援機能の強化、指導者の確保など課題、地域間・学校間の格差という課題を解決することを目的とする。						
現状・課題 (5行程度以内)	「GIGAスクール構想」の下で1人1台端末の整備が概ね完了し、本格的な活用フェーズに入中、優良事例の普及、自治体支援機能の強化、指導者の確保など課題も顕在化しており、地域間・学校間の格差も生じている。このため、これらの課題の解消に総合的に取り組む。また、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度である情報モラル教育も推進する必要がある。「情報活用能力」を構成する要素を児童生徒がどの程度身に付けているかを測定し、それを踏まえて、今後の情報教育関係施策の改善等に活用していく。						
事業概要 (5行程度以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●GIGAスクール構想の加速化事業(伴走支援強化・先進事例創出)</li> <li>GIGAスクール第1ステージ半ばで顕在化した自治体間格差を解消するため、令和5～6年を集中推進期間と位置づけており、効果的な実践事例を創出・横展開するとともに、伴走支援の徹底強化。また、GIGAスクール構想第2ステージに向けては、準備が整った自治体・学校において生成AIの適切な活用や高度なプログラミング教育、デジタルものづくりなどの先進事例を創出。</li> <li>●情報モラル教育推進事業</li> <li>普段から意識すべきことや直面する諸課題(生成AI、ファクトチェックなど)について、児童生徒が自分で考え、解決できる力を身に付けることを目指し、情報モラルポータルサイトにおける各種コンテンツの充実や情報モラル教育指導者セミナーを開催。</li> <li>●児童生徒の情報活用能力の把握に関する調査研究</li> <li>令和5年度に予備調査を実施し令和6年度に本調査を実施予定(前回調査令和3年度)。プログラミング教育によって育成される資質・能力も含め、「情報活用能力」を構成する要素を児童生徒がどの程度身に付けているかを測定し、それを踏まえて、今後の情報教育関係施策の改善等に活用。</li> </ul>						
事業概要URL	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アドバイザー等による自治体支援事業: https://ictadvisor.mext.go.jp/</li> <li>●情報モラル教育推進事業: https://www.mext.go.jp/zyoukatsu/moral/index.html</li> <li>●児童生徒の情報活用能力の把握に関する調査研究(平成29年度～)https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00028.html</li> </ul>						
実施方法	委託・請負						
補助率等	-						
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)	予算の 状況	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求	
		当初予算(A)	133.4	424.1	370.8	276.6	633.6
		補正予算(B)	-	-	850.7	-	-
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	850.7	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	▲850.7	-	-
		予備費等(E)	-	-	-	-	-
		計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	133.4	424.1	370.8	1,127.3	633.6
		執行額(G)	119.7	373.5	370.8	-	-
		(G)/(F)	90%	88%	100%	-	-
		当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]	90%	88%	30%	-	-
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
	(項)	初等中等教育振興費			補正予算で実施している事業内容を、R6年度は当初予算で要求しているため。 重要施策推進枠 227百万円		
	(目)	初等中等教育振興事業委託費	258	619			
		庁費	7	6			
		委員等旅費	4	3			
		諸謝金	4	2			
		職員旅費	3	4			
		その他	19	15			
	計(A)	276.6	633.6				

<b>活動内容①</b> (アクティビティ)	教員等を対象とした情報モラル教育指導者セミナーを実施する。また、児童生徒や教員等を対象とした情報モラルを含む情報モラルポータルサイトによる情報発信をし、保護者も対象とした情報モラル教育の推進に係るコンテンツ(動画教材等)を充実する。									
↓										
<b>活動目標及び活動実績①</b> (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
	情報モラルポータルサイトのコンテンツ充実	情報モラルポータルサイトの新規コンテンツ数	活動実績	回	-	-	-	-	-	
			当初見込み	回	-	-	-	3	5	
↓	<b>成果目標①-1の 設定理由</b> (アウトプット からのつながり)	効果発現の初期段階として、情報モラルポータルサイトにおけるコンテンツ数を増加させる。コンテンツを増加し、積極的な広報を行うことにより、サイトへのアクセス数の増加につながると考えられるため、短期アウトカムとして設定した。								
<b>成果目標及び成果実績①-1</b> (短期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5年度		
	情報モラルポータルサイトへのアクセス	情報モラルポータルサイトアクセス数	成果実績	PV	51,209	52,211	72,127	-		
			目標値	PV	-	-	-	100,000		
			達成度	%	-	-	-	-		
<b>成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績</b>	情報モラルポータルサイト: <a href="https://www.mext.go.jp/zyoukatsu/moral/index.html">https://www.mext.go.jp/zyoukatsu/moral/index.html</a> (文部科学省)									
↓	<b>成果目標①-2の 設定理由</b> (短期アウトカム からのつながり)	情報モラル教育に関するコンテンツが増加することで、情報モラルポータルサイトの活用が促進される。情報活用能力調査(学校質問調査)において、情報モラル教育に関して、望ましい取組の実施状況を問う項目の肯定的な回答の割合の増加につながると考えられるため、中期アウトカムとして設定した。  <small>【質問項目例】</small> ・児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。 ・児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。								
<b>成果目標及び成果実績①-2</b> (中期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 7年度		
	情報活用能力調査(学校質問調査)情報モラル教育に関する項目(総数12項目)	全校種における肯定的回答(90%)の項目の割合の増加	成果実績	%	-	-	42	-		
			目標値	%	-	-	-	80		
			達成度	%	-	-	-	-		
<b>成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績</b>	令和3年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果(概要)【確定値】(文部科学省) <a href="https://www.mext.go.jp/content/20221027-mxt_jogai02-000025395_100.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20221027-mxt_jogai02-000025395_100.pdf</a> ※平成30年度調査よりチェックリストを改定し、経年での単純比較ができないため、参考値とする。 ※令和4年度実績は調査中									
↓	<b>成果目標①-3の 設定理由</b> (長期アウトカム へのつながり)	情報活用能力調査(学校質問調査)において、望ましい取組の実施状況を問う項目の肯定的な回答の割合が増加することで、児童生徒質問調査においても、肯定的な回答の割合の増加につながると考えられるため、長期アウトカムとして設定した。  <small>【質問項目例】</small> ・自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。 ・インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。								
<b>成果目標及び成果実績①-3</b> (長期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 10年度		
	情報活用能力調査(児童生徒質問調査)情報モラルに関する項目(総数33項目)	全校種における肯定的回答(90%以上)の項目の割合の増加	成果実績	%	-	-	67	-		
			目標値	%	-	-	-	80		
			達成度	%	-	-	-	-		
<b>成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績</b>	児童生徒の情報活用能力の把握に関する調査研究(令和3年度実施)の結果【速報値】(文部科学省) <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00028.html">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00028.html</a> ※次回調査は、令和6年度実施予定。結果公表は令和7年度予定。									
<b>アウトカム設定について の説明</b>	アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由									
	アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由									

<b>活動内容②</b> (アクティビティ)	児童生徒の情報活用能力の把握に関する調査研究として、言語能力など同様に学習の基盤となる資質・能力と位置づけられた情報活用能力を定期的に測定するため、小学校・中学校・高等学校等における児童生徒の情報活用能力調査を全国規模で実施する。令和5年度は、令和6年度に実施する本調査に向けた予備調査を実施。																										
↓																											
<b>活動目標及び活動実績②</b> (アウトプット)	活動目標 情報活用能力を定期的に測定する	活動指標 「情報活用能力」に関する調査問題等作成	<table border="1"> <tr> <td>活動実績</td> <td>件</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>当初見込み</td> <td>件</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </table>	活動実績	件	1	1	-	-	-	当初見込み	件	1	1	-	1	1	単位 件	令和2年度 1	令和3年度 1	令和4年度 -	5年度 活動見込 -	6年度 活動見込 -				
活動実績	件	1	1	-	-	-																					
当初見込み	件	1	1	-	1	1																					
↓ <b>成果目標②-1の</b> <b>設定理由</b> (アウトプットからのつながり)	初期段階として、情報活用能力調査の結果を踏まえた指導アイデア集を公表することにより、課題を周知することができると考えられる。これらをStuDX Styleホームページに掲載することで、サイトアクセス数が増加し情報活用能力育成について理解を深めることができると考えられるため、短期アウトカムとして設定した。																										
<b>成果目標及び成果実績②-1</b> (短期アウトカム)	成果目標 StuDX Styleのホームページアクセス数	定量的な成果指標 StuDX Styleのホームページ(情報活用能力育成についての)のページのアクセス数	<table border="1"> <tr> <td>成果実績</td> <td>PV</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>32,179</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>PV</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>40,000</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	成果実績	PV	-	-	32,179	-	目標値	PV	-	-	-	40,000	達成度	%	-	-	-	-	単位 PV	令和2年度 -	令和3年度 -	令和4年度 -	目標年度 5 年度	年度
成果実績	PV	-	-	32,179	-																						
目標値	PV	-	-	-	40,000																						
達成度	%	-	-	-	-																						
<b>成果実績及び目標値の</b> <b>根拠として用いた</b> <b>統計・データ名(出典)</b> <b>/定性的なアウトカムに</b> <b>関する成果実績</b>	StuDX Style <a href="https://www.mext.go.jp/studxstyle/">https://www.mext.go.jp/studxstyle/</a>																										
↓ <b>成果目標②-2の</b> <b>設定理由</b> (短期アウトカムからのつながり)	StuDX Styleのホームページにアクセスし情報活用能力育成について理解が深まることで、教員がICT活用を指導する場面が増加すると考えられる。情報活用能力調査(学校質問調査)で情報活用能力の指導状況について望ましい取組の実施状況を問う項目の肯定的な回答の割合が増加すると考えられるため、中期アウトカムとして設定した。  <small>【質問項目例】          ・児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。          ・児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。</small>																										
<b>成果目標及び成果実績②-2</b> (中期アウトカム)	成果目標 情報活用能力調査(学校質問調査)情報活用能力の指導状況に関する項目(総数12項目)	定量的な成果指標 全校種における肯定的な回答(80%)の項目の割合の増加	<table border="1"> <tr> <td>成果実績</td> <td>%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>67</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	成果実績	%	-	-	67	-	目標値	%	-	-	-	80	達成度	%	-	-	-	-	単位 %	令和2年度 -	令和3年度 -	令和4年度 -	目標年度 7 年度	年度
成果実績	%	-	-	67	-																						
目標値	%	-	-	-	80																						
達成度	%	-	-	-	-																						
<b>成果実績及び目標値の</b> <b>根拠として用いた</b> <b>統計・データ名(出典)</b> <b>/定性的なアウトカムに</b> <b>関する成果実績</b>	令和3年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果(概要)【確定値】(文部科学省) <a href="https://www.mext.go.jp/content/20221027-mxt_jogai02-000025395_100.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20221027-mxt_jogai02-000025395_100.pdf</a>																										
↓ <b>成果目標②-3の</b> <b>設定理由</b> (長期アウトカムへのつながり)	情報活用能力の指導状況について、望ましい取組の実施状況を問う項目の肯定的な回答の割合が増加すると考えられる。学校におけるICTを指導する場面が増加につながると考えられるため、児童生徒質問調査の「1日当たりの情報機器利用時間」の増加を長期アウトカムとして設定した。																										
<b>成果目標及び成果実績②-3</b> (長期アウトカム)	成果目標 情報活用能力調査(児童生徒質問調査)「1日当たりの情報機器利用時間」	定量的な成果指標 各校種の1日1時間以上利用している生徒の割合	<table border="1"> <tr> <td>成果実績</td> <td>%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>37</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	成果実績	%	-	-	37	-	目標値	%	-	-	-	43	達成度	%	-	-	-	-	単位 %	令和2年度 -	令和3年度 -	令和4年度 -	目標最終年度 10 年度	年度
成果実績	%	-	-	37	-																						
目標値	%	-	-	-	43																						
達成度	%	-	-	-	-																						
<b>成果実績及び目標値の</b> <b>根拠として用いた</b> <b>統計・データ名(出典)</b> <b>/定性的なアウトカムに</b> <b>関する成果実績</b>	令和3年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果(概要)【確定値】(文部科学省) <a href="https://www.mext.go.jp/content/20221027-mxt_jogai02-000025395_100.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20221027-mxt_jogai02-000025395_100.pdf</a>																										
<b>アウトカム設定について</b> <b>の説明</b>	アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由																										
	アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由																										

<b>活動内容③</b> (アクティビティ)		1人1台端末の日常的な活用について、課題を抱える自治体・学校に、集中的な伴走支援を実施。学識経験者、先進地域の教育委員会や指導主事、ネットワークや情報セキュリティの専門家など、国がアドバイザーとして任命した者が、地域・学校へ直接助言する。								
↓										
<b>活動目標及び活動実績</b> (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		学校におけるICT環境整備や、指導に関する助言・支援を実施	自治体等からアドバイザー事務局への問合せ・サポート件数	活動実績	回	3,000	901	5,360	-	-
				当初見込み	回	-	1,000	1,000	6,000	6,000
↓		成果目標③-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)								
		GIGAスクール構想・情報教育を含む教育の情報化に関する学校設置者からの問い合わせについて対応を実施した。その背景となる状況や問題意識を捉えた上で、自治体や教員のニーズに応じた支援を行うことが、ICTの効果的な活用促進につながると考え、ICT活用教育アドバイザーによる助言支援数を短期アウトカムを設定した。								
<b>成果目標及び成果実績</b> (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5年度	
		自治体のニーズに合わせた助言・支援を行うための、アドバイザー派遣	アドバイザー派遣実施回数	成果実績	回	197	298	306	-	
				目標値	回	200	200	300	400	
				達成度	%	98.5	149	102	-	
<b>成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績</b>		令和4年度文部科学省委託「GIGAスクールにおける学びの充実事業」(ICT活用教育アドバイザー等による自治体支援事業及びICTを活用した指導力向上支援事業)実施報告書								
↓		成果目標③-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)								
		アドバイザーから問題解決のヒントとなる助言を受け取る段階から、他者と協働しながら情報を獲得する段階への移行を促すため、オンラインによる質問会の回数を中期アウトカムとして設定した。								
<b>成果目標及び成果実績</b> (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6年度	
		学校設置者、教員を対象とした質問会	オンライン質問会の実施回数	成果実績	回	2	7	10	-	
				目標値	回	3	5	10	15	
				達成度	%	66.7	140	100	-	
<b>成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績</b>		令和4年度文部科学省委託「GIGAスクールにおける学びの充実事業」(ICT活用教育アドバイザー等による自治体支援事業及びICTを活用した指導力向上支援事業)実施報告書								
↓		成果目標③-3の 設定理由 (長期アウトカム へのつながり)								
		本事業の目的は教育の質の向上に向けて、学校のICT環境整備の加速とその効果的な活用を一層促進することである。これらのためには、学校長の方針や計画、教職員への具体的な働きかけが不可欠と考え、長期アウトカムの成果目標を、端末利活用状況等の実態調査における肯定的な回答の増加とした。								
<b>成果目標及び成果実績</b> (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 7年度	
		「端末利活用状況等の実態調査(学校長向け)質問票」 肯定的な回答の増加	「今年度、学校経営方針等の中で、1人1台端末等の日常的な利活用に関する方針・ビジョンや計画を示していますか」という問いに「示している」と回答した学校長の割合(小・中結果の平均値)	成果実績	%	-	-	75.3	-	
				目標値	%	-	-	-	100	
				達成度	%	-	-	-	-	
<b>成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績</b>		端末の利活用状況等の調査結果を踏まえた対応について(4文科初第2793号 令和5年3月30日) 【別紙4】1人1台端末の学校での活用状況								
<b>アウトカム設定についての説明</b>		アクティビティ③について定性的なアウトカムを設定している理由								
		アクティビティ③についてアウトカムが複数設定できない理由								

<b>活動内容④ (アクティビティ)</b>		全国の高等学校で必修科目となった「情報Ⅰ」について、教師の指導力向上のための授業動画の作成に向け、企画立案、開発、作成。「情報Ⅰ」に関して、指導に携わる教員の専門性の向上に向けた学習会の開催。									
↓											
<b>活動目標及び活動実績 ④ (アウトプット)</b>		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
		指導力が優れた教員による分かりやすく端的に説明された授業動画を作成する	授業動画の再生回数	活動実績	PV	-	-	25,367	-	-	
				当初見込み	PV	-	-	5,000	35,000	-	
↓											
<b>成果目標④-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)</b>		情報Ⅰは令和3年度から新しく開設された科目であるため、情報科の授業を担当する教員の指導力向上が重要である。専門性の向上及び指導力の向上のため、情報科教員の参加を促進し、授業動画を題材にしたオンライン研修会の申込者数を短期アウトカムとして設定した。									
<b>成果目標及び成果実績 ④-1 (短期アウトカム)</b>		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6年度		
		必修科目「情報Ⅰ」を担当する教員の研修意識の向上	授業動画をもとにした有識者によるオンライン研修会申込者数	成果実績		-	-	5,537	-		
				目標値		-	-	5,000	6,000		
				達成度	%	-	-	110.7	-		
<b>成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績</b>		高等学校情報科 指導力向上研修会申し込み人数(参加者数)									
↓											
<b>成果目標④-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)</b>		本事業の目的は中長期的な視野の下、県域毎に専門性の高い指導者の養成を行うことである。これらのためには、必修科目「情報Ⅰ」を担当する教員の専門性と指導力の向上が不可欠と考え、長期アウトカムの成果目標を、授業動画をもとにした有識者によるオンライン研修会参加者の満足度の増加とした。									
<b>成果目標及び成果実績 ④-3 (長期アウトカム)</b>		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 7年度		
		必修科目「情報Ⅰ」を担当する教員の専門性と指導力の向上	授業動画をもとにした有識者によるオンライン研修会参加者の満足度(「大変参考になった」、「参考になった」と回答した参加者の割合)	成果実績	-	-	-	97.9	-		
				目標値	-	-	-	100	100		
				達成度	%	-	-	97.9	-		
<b>成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績</b>		高等学校情報科 指導力向上研修会参加者数アンケート調査									
<b>アウトカム設定について の説明</b>		アクティビティ④について定性的なアウトカムを設定している理由									
		アクティビティ④についてアウトカムが複数設定できない理由									
<b>事業に関連する KPIが定められて いる関連決定等</b>		名称									
		URL									
		該当箇所									
<b>事業所管部局による点検・改善</b>											
<b>点検結果</b>		全ての学習の基盤となる「情報活用能力」の育成に資するものであるこれらの事業は、学習指導要領の着実な実施を促進するとともにICTを活用した教育・学習の振興の促進に欠かせない施策であり、その必要性が認められる。事業を通じて、セミナーの実施、実践事例等のWeb上での発信などを行い、普及啓発に努めているところである。					目標年度における効果測定に関する評価(令和7年度実施)				
<b>改善の 方向性</b>		事業の重要性や目的を踏まえつつ、十分な広告期間や委託契約期間の設定等を通じて、契約における競争性、公平性、透明性を確保する。また、事業の効率的な実施に努めるとともに、目標の達成に向けて、これまでの成果物の周知・普及、セミナーの充実などにより、教師のICT活用指導力を図り、ICTを活用した教育・学習の振興をより一層促進していく。									



**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
 (単位: 百万円)

A. エヌ・ティ・ティラーニングシステムズ (全1団体) 39.1百万円

・情報モラル教育の推進に係るe-learningコンテンツの作成  
 ・情報モラル教育指導者セミナーの開催  
 ・児童生徒の健康に留意して「ICTを活用するためのガイドブック」の更新  
 ・動画教材の2本の作成「端末を用いて家庭学習を行う」  
 「チャットツールを用いた協働学習」

B. 4県 (4団体) 8.45百万円

1人1台端末の環境を踏まえ、情報や情報技術を積極的に活用する際に、普段から意識すべきことや直面する諸課題について、児童生徒が自分で考え、解決できる力を身に付けることを目指した情報モラル教育

C. 内田洋行 (全1団体) 62.6百万円

児童生徒の情報活用能力の把握に関する調査研究

D. エヌ・ティ・ティラーニングシステムズ (1団体) 170.5百万円

教育の質の向上に向けて、学校のICT環境整備の加速とその効果的な活用を一層促進するため、全国の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の学校設置者を対象に、学校のICT環境の整備・活用に関する助言などの支援等を行う。

E. エヌ・ティ・ティラーニングシステムズ (1団体) 79.7百万円

令和4年度から新設された必修科目「情報I」に関して、高等学校担当教師の指導力向上や学習環境の充実が急務である。解説動画・教材等の企画・立案、開発・作成、オンライン双方向による学習会の開催、シンポジウムの開催等、教師の指導力の向上及び学習環境の充実を図る。

**費目・使途**  
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
諸謝金	有識者への謝金(委員会等の出席、執筆)	1	諸謝金	検討委員会	1
人件費	事業執行に関わる人件費	24	旅費	研修会旅費	1
雑役務費	ポータルサイト制作費 アンケート集計支援 旅費(有識者)	11	再委託費	中種子町	3
印刷製本費	「情報モラル推進事業」に係る成果物印刷	1	借料及び損料	DQworld使用料	1
その他	消費税・一般管理費	6	消耗品費	研究事務用品、オンライン授業用機器、データ通信費	2
計		43	計		8
C.			D.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
諸謝金	有識者への謝金(委員会等の出席)	2	諸謝金	検討委員会等の諸謝金	7.2
人件費	事業執行に関わる人件費	51	人件費	事業執行に関わる人件費	91.7
雑役務費	パンフレット作製費、サーバー運営費 旅費(有識者)機器レンタル費	5	旅費	事業執行に関わる旅費	1.1
その他	消費税・一般管理費	11	雑役務費	窓口業務支援、Web構築等	46.2
			その他	消費税・一般管理費	24.2
計		69	計		170.4
E.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
諸謝金	有識者謝金	1.5			
人件費	事業執行に関わる人件費	54.1			
旅費	事業執行に関わる旅費	0.6			
雑役務費	学習会等対応	11.1			
その他	消費税・一般管理費	12.6			
計		79.9	計		

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	エヌ・ティ・ティラーニングシステムズ株式会社	9010401005010	情報モラル教育推進事業	27	一般競争契約 (総合評価)	1	93.1%	
2	エヌ・ティ・ティラーニングシステムズ株式会社	9010401005010	情報モラル教育推進事業	12	一般競争契約 (総合評価)	1	88.1%	

B.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	宮崎県知事	4000020450006	「情報モラル教育推進事業」(1人1台端末環境下における実践的調査研究)事業	4	随意契約(公募)	1	100%	
2	徳島県立総合教育センター	4000020360007	「情報モラル教育推進事業」(1人2台端末環境下における実践的調査研究)事業	2	随意契約(公募)	1	100%	
3	埼玉県知事	1000020110001	「情報モラル教育推進事業」(1人4台端末環境下における実践的調査研究)事業	2	随意契約(公募)	1	100%	
4	鹿児島県教育委員会教育長	8000020460001	「情報モラル教育推進事業」(1人3台端末環境下における実践的調査研究)事業	1	随意契約(公募)	1	100%	

C.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社内田洋行	1010001034730	「GIGAスクールにおける学びの充実事業」児童生徒の情報活用能力の把握に関する調査研究	63	一般競争契約 (総合評価)	1	98.7%	

D.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	エヌ・ティ・ティラーニングシステムズ株式会社	9010401005010	「GIGAスクールにおける学びの充実事業」(ICT活用教育アドバイザー等による自治体支援事業及びICTを活用した指導力向上支援事業)	171	一般競争契約 (総合評価)	2	75.7%	

E.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	エヌ・ティ・ティラーニングシステムズ株式会社	9010401005010	「GIGAスクールにおける学びの充実事業」(高等学校情報教員指導力向上事業)	80	随意契約(公募)	1	100%	
2								
支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載							チェック	